

普及指導情報

「低温に伴う技術対策について」

(第68号)

平成30年12月26日

佐賀県農業技術防除センター







(表題) 低温に伴う技術対策について

(担当) 農業技術防除センター 専門技術部

本県では、12月28日頃に冬型の気圧配置が強まり、寒気の程度により大荒れとなる恐れがあります。

このため、年末年始における低温に伴う技術対策を別紙のとおり取りまとめましたので、業務の参考にしてください。

12月25日5時 佐賀県の週間天気予報

日付	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日	31 月
佐賀県 府県天気予報へ	晴 	曇一時雨 	曇 	曇一時雪か雨 	曇 	曇時々晴 	曇時々晴 
降水確率(%)	-/0/0/0	10/50/30/30	30	40	40	30	30
信頼度	/	/	B	B	B	A	A
佐賀	最高(°C)	14	10 (8~12)	6 (4~8)	7 (5~9)	9 (6~12)	10 (7~12)
	最低(°C)	/	3 (0~6)	1 (-2~2)	1 (-1~3)	1 (-1~4)	2 (0~5)
平年値	降水量の合計		最高最低気温				
			最低気温		最高気温		
佐賀	平年並 2 - 10mm		1.9 °C		11.0 °C		

九州北部地方週間天気予報

平成30年12月24日16時35分 福岡管区气象台発表

予報期間 12月25日から12月31日まで

向こう一週間は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多く、期間の中頃に雪や雨の降る所があるでしょう。なお、28日頃は冬型の気圧配置が強まり、寒気の程度によっては大荒れとなるおそれがあります。

最高気温、最低気温は共に、期間のはじめは平年並か平年より高いでしょう。その後は平年並か平年より低く、かなり低い所があるでしょう。

降水量は、平年並か平年より少ない見込みです。

海上は、波が高い日が多いでしょう。

1 園芸用施設（野菜・花き・果樹共通）

〔低温・寒害対策〕

- 1) 施設果菜類は、低温が続くと収穫までの日数が長くなり、着果負担が増大して草勢の低下につながる。このため、閉めこみ温度や最低温度を高め、日中加温により曇雨天日の日中温度の確保に努める。
- 2) 施設花きでは、低温により開花遅延や品質低下が起こりやすいため、適正温度の確保に努める。
- 3) 加温機の保守・点検や燃料の確認を行う。また、施設内の開口部やビニール等の隙間を無くし、保温資材を活用することで燃油の節減に努める。
- 4) 加温機が長く稼働する日は、曇雨天であっても植物の蒸散量が増加するため、かん水を控えすぎないように少量ずつこまめにかん水する。
- 5) 夜に加温機が稼働せず日中曇雨天で換気をしない日は、ハウス内の湿度が高くなるので、早朝加温や日中加温しながら隙間換気をして除湿を図る。
- 6) 灰色かび病や菌核病等が多発する恐れがあるため、夜間はカーテンを少し開けて加温機を稼働させ、併せて終日循環扇を稼働することで結露を防止する。
- 7) 無加温の施設では被覆資材を活用し、気密性を高める工夫を行い、保温性を高める。
- 8) 無加温ハウスでは、必要に応じて応急的に家庭用暖房機を活用するなど、寒害の回避に努める。この場合、火災や不完全燃焼に注意する。
- 9) 凍結の恐れがある場合、灌水用の配管やポンプ等については、事前に凍結防止対策に努める。

〔積雪対策〕

- 1) ハウスの天井ビニールに積雪し始めたら、二重カーテンを開け加温設定温度を上げる。
- 2) ハウス天井部の支柱の補強に努める。
- 3) 連棟ハウスは谷部の除雪に努める。
- 4) ハウスが倒壊する恐れがある場合は、ビニールを除去する。

〔強風対策〕

- 1) 防風垣や防風ネットは、事前に補強や整備を行う。
- 2) ハウスバンドは緩みを直し、杭の補強を行う。
- 3) 北側や西面にある出入口は強風を直接受けやすいので、ビニール等で覆う。
- 4) ハウスの妻面上部や中央部を中心にして、防風ネット等で覆い、ビニールの浮き上がりを防ぐ。
- 5) 換気扇は換気孔を閉じ、密閉度を高めて、ビニールのバタつき、浮き上がりを防ぐ。

2 露地野菜

- 1) 寒風による寒害を防ぐため、防風垣や防風ネットの点検を行う。
- 2) 地温低下による根の被害を防ぐため、畦上への切りわら散布や培土、マルチ等を行う。
- 3) 夜間晴天で翌朝の冷え込みが予想される場合は、不織布等の資材を畦上に直接べたがけして、寒害防止に努める。
- 4) 結球成熟期のキャベツやハクサイでは結球葉が寒害を受けやすいの

で、キャベツでは肥切れさせない、ハクサイでは結球部を外葉で包み込む等の対策をとる。

- 5) 寒害を受けた場合は、早朝に散水して霜を除き、直射日光が当たらないようにコモ等で日除けを行い、2~3日間草勢の回復に努める。
- 6) 寒害を受けた場合は、被害部からの病害侵入を防ぐため、直ちに防除を行う。

3 果樹

- 1) 中晩柑類は、凍害（果実の氷結点 -3°C 。外気温 $-3.5\sim-4^{\circ}\text{C}$ で発生）によりス上がりや苦み、果皮障害が発生するので、収穫できるものは早めに収穫する。早期収穫できない品種では果実の袋かけや樹体に防寒布等を被覆し防寒する。
- 2) 施設中晩柑栽培で -3°C の低温が長時間以上続く恐れがある場合は、加温機やストーブ等暖房機器により施設内を保温する。
- 3) 貯蔵は外気温に応じて、品種別の適切な予措・貯蔵方法により管理を行う。
- 4) 圃場内に冷気が停滞しないよう、防風樹の裾部を刈り上げる等の対策を行う。
- 5) 施設でビニールが破損するなどの被害が生じた場合は、早急に修復し、樹体を低温から保護する。
- 6) 被害が出たハウスでは急激な昇温は避け、当分の間はやや低温条件で管理し、落果防止等に努める。
- 7) 積雪による枝裂けや枝折れは、軽微な場合ヒモや縄等で結束して、傷口の癒合を図る。傷口が大きい場合は切り戻し、切り口に癒合剤を塗布する。
- 8) 幼木が傾いた場合は、早急に引き起こし、支柱を添えて固定する。
- 9) ハウスミカンでは、曇天・日照不足で生理落果が誘発されるので、生理落果期の園地では、着花（果）状況や樹勢に応じて細やかな温湿度管理を行う。
- 10) 施設栽培の落葉果樹については、加温にあたって低温遭遇時間やDVIを十分に確認しながら行う。